

平成29年度 第2回館山市子ども・子育て会議 要録

1	審議会名	館山市子ども・子育て会議
2	日 時	平成30年1月31日(水) 午後1時30分～午後3時00分
3	会 場	市役所本館 2階会議室
4	出席者	石渡委員長、押元副委員長、齋藤委員、新藤委員、内田委員、 菊井委員、中村委員、清宮委員、半澤委員、田村委員、庄司委員、 室委員、安藤委員 (欠席委員) 越智委員、山崎委員
5	市側出席者	四ノ宮教育部長 (こども課) 富田課長、高田副課長、大山係長、 山木主事、黒川主事
6	会議次第	
1	開 会	
2	議事	
	(1)	保育施設の利用定員の変更について
	(2)	「子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて
	(3)	質疑・意見交換
	(4)	その他
7	閉 会	

(1) 保育施設の利用定員の変更について

大山係長から、保育施設の利用定員の変更について説明。

(大山係長) 子育て保育園から利用定員変更(定員減)の申出があった。私立保育園の利用定員を変更する場合、市町村長の意見書を添付した変更届を千葉県に提出する必要がある。本会議において委員の皆様の意見を頂き、意見書に反映させたい。

(資料① 1P) 変更内容は現行利用定員30人から10人減らし20人とする。内訳は1歳～2歳の3号認定を1人、3歳～5歳の2号認定を9人減らす。平成29年4月1日の実績においても2号認定が11人となっており、館山市全体で調整すれば変更可能と考えている。

(資料① 4P) 県が認可を行う認可定員と市が設定を行う利用定員があるが、館山

市では認可定員数（合計）と利用定員数（合計）を合致させることになっている。

（資料① 2 P）1号認定の認可定員及び利用定員について、房南こども園を50人から30人に、九重こども園を40人から20人に減らし、市全体で840人から800人に減らす。

（資料① 3 P）2、3号認定の利用定員案について、船形こども園60人から90人へ（2号を30人増やす）、九重こども園を40人から70人へ（3号認定を3人、2号認定を27人増やす）、中央保育園は全体の人数は変わらないが内訳を変更（3号認定0歳を4人減らし、1、2歳を4人増やす）、子育て保育園を30人から20人へ減らし、全体で670人から720人に増やす。

意見交換の詳細

（石渡委員長）子育て保育園園長の内田委員は当事者のため意見は控えて説明のみとしてはほしい。補足などあればお願いしたい。

（内田委員）利用者が少ないこと、保育士がなかなか見つからないことから定員の変更をお願いしたい。

（室委員）全体として2、3号認定の定員が増えるようになっているが、4月の入所見込みをみてこのようにしているのか。

（富田課長）4月に待機はでなかったのですがすぐには必要ないが、子ども・子育て支援事業計画にもあるため子育て保育園の定員変更に合わせて見直しを行い作成した。

（室委員）保育士の確保は問題ないのか。

（富田課長）保育士の確保が厳しくなっているが、定員変更後ルール上必要な保育士総数は58人。現在正規職員が園長含めて46名、非常勤職員が短時間含めて50名の計96名いるので、産休等がでる可能性はあるが問題ないのではと考えている。

（齋藤委員）0歳を増やすのは難しいか。仕事復帰したいが入れないからという人も多い。

（富田課長）平成24年から年度途中で待機がでていた。定員設定は子ども・子育て支援事業計画に合わせて作っており、それは4月1日時点で待機がでない確保策を講じるよう策定している。正規職員は年度途中で増やすのは難しいが非常勤で補いながら対応していく。

（齋藤委員）房南こども園の1号認定を減らしているのは何か理由があるのか。

（大山係長）実情に合わせた。実績をみると定員30人にしても充分と考える。

（齋藤委員）だとすると他でも同様のことが言えるのでは。

（富田課長）房南こども園については平成27年3回会議で3号認定を30人拡大したが、1号認定は触らなかったという経緯があり、今回他の園と合わせて調整した。

（室委員）利用定員によって面積の規定があるのか。幼稚園は予定人数に比べて定員が大きくなっているが問題ないのか。

（富田課長）幼稚園は昔からの設定があるためこども園以外は従来の設定を触らないと考えている。保育園は0歳児1人当たり何㎡と決められているが、幼稚園はクラス数に対して全体の面積が決められている。

(石渡委員長) 5点質問がでて事務局回答してもらった。反対意見はないので止むなしとしてよいか。止むなしとして報告する。

(2)「子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて

高田副課長から「子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて説明

(高田副課長) 平成 29 年度は計画の中間年に当たることから、実績あるいは実施状況により見直しを行う。国から提示された項目について実績数が見込みと 10%以上乖離する場合に見直しが必要となる。前回会議では見直しに関する意見はなかったが、議事(1)の状況の変化等により、見直しをする必要が生じた。資料②の赤字の数字が 10%以上乖離しており、黄色のマーカーが修正案。

(資料② 5 P) (1) ①幼児期の学校教育・保育の見込み量及び確保策

(資料② 6 P) (2) の 2 号認定 (3 歳～5 歳) について 31 年度見込み量 431 人に対し、提供量 411 人とマイナスになっているが、北条幼稚園で開始した預かり保育が受け皿となり確保できると考えている。

(2) 地域子ども・子育て支援事業の見込み量及び確保策

①一時預かり事業

(資② 8 P) 今年度から北条幼稚園での預かり保育を開始したことを受け、1 号認定を修正する。前述の 2 号認定の提供量の不足を一時預かりで補うため関連して見直しを行う。北条幼稚園の預かり保育の利用実績は平成 29 年度 41 人、平成 30 年度は 55 人の利用希望があり、平成 31 年には定員の 60 人を見込む。

②病児保育事業

(資② 9 P) 見込み量については、平成 25 年度の利用実績を勘案し、推計児童数に乗じて算出しており、ニーズの高まりから平成 28 年度は見込み量と実績数が 10%以上乖離している。また、現在の委託契約が今年度末で満了となることから、次期契約候補者と協議を重ねているが、その中で、隔離困難な状況においては受入不可としているが、受け入れ態勢の改善等により若干ではあるが受入拡大が見込めるとの説明があることから現状の実態を反映させる形で見直したいと考えている。

意見交換の詳細

(齋藤委員) 6 P (1)2 号認定の幼稚園の利用希望が強いとはどういう意味か。

(富田課長) 現在預かり保育を行っているため、本来 2 号認定になるが幼稚園を利用して人もある。保育認定だが保護者の希望等により幼稚園を利用している人をこのように呼んでいる。

(齋藤委員) 北条学区の人が他の学区の保育園を利用しているという声をよく聞く。家は北条学区だが九重こども園に行っているなど学区外の保育園を利用することで、そのまま子どもの将来が決まると思うので、それを容認するのであれば、小学校や中学校と連携をしてほしい。こども会に入れと言われても入れなかったりして子どもが孤立する可能性があるのでもうまく繋げて頂けたらと思う。

(富田課長) 幼稚園、こども園から小学校に上がる際に友達関係を維持したいとの理由から、学童も整備されているため他学区を利用する人もいる。その結果こども会に支障がでることもあるので、子どもが困らないよう小学校と情報共有していきたい。

(齋藤委員) 他の保護者に申し訳ないと思ったり、はみ出し者にならないか心配になる。

(富田課長) 小規模校以外は学童もあるので、将来を考えて判断してもらえたら。

(石渡委員長) 中間見直しの提案について承認とする。

(4) その他

合計特殊出生率について高田副課長から説明

(高田副課長) (資料③) 平成 28 年の合計特殊出生率が発表された。女性人口の落ち込みに比べ出生数はさほど落ち込みが少ないのが館山市の特徴で、合計特殊出生率 1.44 と県内でも高い数字となっている。

学童クラブの運営について高田副課長から説明

(資料⑤) 公設学童の委託契約が 3 月で終了となるが、昨年 11 月にプロポーザルを行い、来年度からも引き続き(株)アンフィニにお願いすることとなった。立ち上げ当初 230 人だった定員が現在 340 人となり、来年度から更に 15 人増やす。また、保護者アンケートの結果 39%が夕方の延長を希望、うち 79%が 18:30 までを希望していることを受け、来年度から 18:00～18:30 まで夕方の延長を始める。これまで 18 時少し過ぎる保護者もいたため 18:15 までも設定した。18:15 までは月額 1,000 円、18:30 までは月額 2,000 円。たまたま過ぎてしまった人は 15 分毎 100 円徴収する。朝の延長利用料を現在は 1 日保育日×100 円としているが見直した。通常月は無料、長期休みにかかる月は 500 円、8 月は 2,000 円とする。保護者の変更手続きを簡素化する仕組みにした。4 月入所の申し込み状況については表のとおり。学童毎で超過している分は日々の定員が超過しない範囲で受け入れられないか(株)アンフィニと協議している。延長利用申込みは見込んだ数字に近い数字となった。

北条幼稚園預かり保育利用状況について大山係長から説明

(大山係長) (資料④) 平成 29 年 4 月 1 日から定員 60 人の預かり保育を実施している。今年度の利用者は年少 76 人のうち 29 人、年長 70 人のうち 12 人となっており、定員 60 人に対し 41 人の申込みがあった。そのうち中央保育園からの転園者は 10 人。北条学区の保護者から同じ学区でとの希望を受け中央保育園からの受け皿となるため開始した経緯がある。平成 30 年度は年少 63 人のうち 26 人、年長 76 人のうち 28 人、計 54 人の見込みとなっている。

意見交換の詳細

(中村委員) 中央保育園からの転園について年長になると北条幼稚園に行く人がほとんどか。

(富田課長) 手元に数字がないため傾向の話になるが、中央保育園は 3 歳までしかいられないため、長時間保育が必要な人はこれまでは私立保育園や純真保育園、館野保育園など

に転園することになった。中央保育園の卒園児をみると3分の1～2分の1は北条幼稚園に進んでおり、おそらく同じ学区がよいという理由から祖父母の支援を受ける等していた。卒園者の全てが預かりを利用している訳ではないが、預かりを開始したことで北条幼稚園に進む人が増えている。

(齋藤委員) 実際に預かりを利用して助かっているという声を聞くが、他の幼稚園はどうか。

(富田課長) こども課としても進めたいとは思っているが、保育態勢の確保がネックになる。市内で次に大きいところとなると館山幼稚園だが、平成30年度の申込みは年少、年長合せて50人程度。正規職員の数も多くないことから預かり保育を始めるには難しい状況にある。どうしたらよいか鑑みながら平成31年度以降どこかで始めたいと思っている。北条幼稚園の保護者アンケート結果はよかったので、預かり保育は好評に受け取られていると考えている。

(齋藤委員) 学区外から北条幼稚園に流れていることはあるか。

(富田課長) 以前からそういう流れはあったが、預かり保育を始めてから特別にというのは感じていない。

(新藤委員) ファミリー・サポートセンター事業について、預かった子をうつ伏せにして亡くなったと新聞で読んだ。館山市の研修体制はどうなっているか。現状と課題などあれば教えてほしい。

(富田課長) 研修について国は規定カリキュラム(24h)の受講を推奨している。館山市は24時間は出来ていないが、必要項目とフォローアップ研修を行っている。実績数をみると平成27年度に688件の利用があるがそれは地方創生の補助金があり300円/時間で行っていたため。補助金がなくなったので平成28年度から数字が落ちた。

(石渡委員長) まかせて会員には登録する際に研修を行い、その後もフォローアップ研修を行う。今年度は6回。ファミリー・サポートセンターを知らない人も多いので様々な媒体を使って知らせていこうと動いている。

(菊井委員) 学区外の話がでたが、年寄りも役に立ちたいと思い子どもに人間関係を植え付けているが、学校に入って学区外ということがいじめに繋がっていないか。

(田村委員) 市内全てを把握している訳ではないが、学区の違いからというのは承知していない。

(菊井委員) 学区以外でも人間関係によるいじめを校長の立場で把握できているのか。

(田村委員) 学校の規模にもよるかと思うが、いじめ対策推進法が制定され、いじめがあれば会議に出すことになっている。どこまでというのは学校によるかも知れないが。

(菊井委員) 今のご時世すごいことを考える子どももいるが、把握できるのか。多辯に深く考え、子どものためになることを考えてもらいたい。少子化で地域の力を借りて皆で育てるのが大切になっている。

(田村委員) それが役目なのできっちりと務めたい。

(中村委員) 幼稚園に行かず学校に行く人もいるのか。

(田村委員) 統計はわからないが、あまりいない。

(中村委員) 幼稚園からと保育園からとでは小学校に上がったときに違いはあるのか。

(田村委員) 4月当初は幼稚園からの顔見知りが多い子とそうでない子で違いはあるが、子どもなので数か月経てばすぐに馴染む。

(中村委員) 保育園からあがる子はかわいそうかなと思う。保育園時代に幼稚園と交流することで友達と知り合い、馴染みやすくすることができる。これからの子のためにぜひお願いしたい。先生方も大変だと思うが、1人ひとりを見つめることを大切にしてほしい。